

所属・資格 国文学科・准教授

申請者氏名 高野 奈未

研究課題		近世期古典注釈学および古典教育に関する研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>近世期の古典注釈学の実態と方法を明らかにし、その成果を活かした古典教育の提案を行うことを目的とする。</p> <p>特に、小学校から高等学校まで繰り返し教材として取り上げられる、『万葉集』『古今集』等の和歌文学、『平家物語』等の軍記文学に注目し、これらに関する近世期の古典注釈学の実態と方法を明らかにする。その成果を利用し、和歌文学・軍記文学に関するより効果的な古典教育の方法を提案する。以上の研究を行うにあたっては、国文学における和歌文学・軍記文学の研究成果、国語教育学における古典教育の研究成果を的確に踏まえるよう留意する。</p>
	研究の 結果	<p>『万葉集』『古今集』等の和歌文学、『平家物語』等の軍記文学を中心として、近世期の理解とその活用について、資料収集と分析を進めた。シンポジウム「万葉集—新たな視角を求めて」（平成30年度東京大学国語国文学会、於東京大学）にパネラーとして参加し、『万葉集』の代表的注釈書である『万葉考』の注釈方法について報告した。『万葉考』で散見する、根拠不明の本文校訂が、真淵特有の万葉観に基づくものであることを明らかにした。これまでの研究成果を踏まえ、賀茂真淵の古典注釈学の意義と史的位置付けを、平成30年度日本大学国文学会大会において発表した。古典教育に関して、小学校・中学校・高等学校国語科の新学習指導要領およびそれに基づくプレテストの分析を行い、古典教育を思考力・表現力を習得するための教材開発が必要となることがわかった。そうした教材の具体として、和歌文学・軍記文学を収載し、挿絵をとまなう名所図会、古典に材を取りつつ言葉のひびきを学べる浄瑠璃の活用が有効ではないかとの見通しを得た。</p>
	研究の 考察・ 反省	<p>古典注釈学について資料収集・検討など、順調に進めることができた。得られた成果のすべてが公表にいたってはいないため、今後速やかに活字化を行いたい。</p> <p>古典教育についても順調に研究を進められたものの、児童・生徒・学生への聞き取り調査や、現在の古典教育の授業の見学も行うことができれば、研究の意義や実効性がさらに高められたものと思われる。この点については今後の課題とする。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>〈研究発表(口頭発表)〉 シンポジウム「万葉集—新たな視角を求めて」パネラー 平成30年度東京大学国語国文学会 2018年4月28日 「古典注釈史における賀茂真淵」平成30年度日本大学国文学会大会 2018年6月30日</p>	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>〈研究成果物(著書、論文、インタビュー、研究ノートなど)〉 『輪切りの江戸文化史』（共著、鈴木健一編、勉誠出版、2018年、「明和五年（1768）—上方の成熟、江戸の胎動」）</p>	